

「街にでかけよう」—いつでもどこへでも—

私たちにできること



柏市心のバリアフリー小冊子検討会

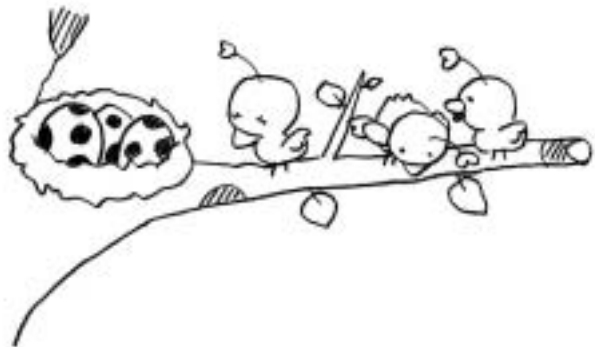
私たちにできること

「私たちにできること」は、「柏市心のバリアフリー小冊子検討会」に参加した市民の皆さんの声をもとにとりまとめました。

すべての「できること」がまとめられている訳ではありませんが、今回は第一段階と考えています。

この中にメモ欄があります。そのメモ欄や余白などに、みなさんの感じたことなどをどんどん書き込んでください。

その書き込みなどをもとに、今後、みなさんの思いをたくさん入れて、継続的に改訂し、より良いものにしていければと思います。



目次

はじめに 取り組みの背景と検討の過程	1
● それぞれの思い	4
● そんなすれ違いをなくすために	6
● こんなことして欲しい、こんなことならできる	7
● 基本的にできること	20
参考：柏市交通バリアフリー基本構想の概要	27



はじめに

取り組みの背景と検討の過程

● 取り組みの背景

平成14年9月に、「柏市交通バリアフリー基本構想」(詳しくは「参考(P27)」をご覧ください)が出来ました。この構想は、お年寄りや障害を持っている人、一般公募で参加した人などの意見を取り入れながら作成しました。

その検討の中で、「ハード整備も大切だけど、一人ひとりの意識を変えていくことも大切」、「もっと市民が中心となった取り組みも必要」という意見が出されました。

そんな思いを実現する一つの手段として、市民が無理なくできそうな取り組みを、様々な方の参加のもと「私たちにできること」としてまとめました。



小冊子づくり検討風景

話し合いの中では、「まちに出る障害者のことが中心にまとめられているが、まちに出ない障害者の問題も大きく、すべての障害者が普通に参加できる社会が必要だ」という意見も出されました。そのような社会を実現するには多くの課題もありますが、ここで話し合ったことを第一歩として、これからもみんなで話し合いや活動を続けていけたらと思います。

● 検討の過程

「私たちにできること」は、基本構想づくり同様、多くの参加者の体験や考えをまとめて構成しています。具体的には、次のような取り組みを実施しました。



第1回バリアフリー点検ワークショップ (H13.10.21)
: 参加者 117 名

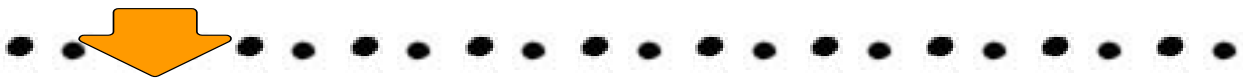
- 場所: 柏市内のすべての駅とその周辺
- 駅周辺のバリアフリー点検



交通バリアフリー
基本構想づくり

第2回バリアフリーワークショップ (H14.3.10)
: 参加者 48 名

- 場所: 柏駅周辺
- 歩道障害物整理後の点検とバリアフリー施策の提案



心のバリアフリー
小冊子づくり



第1回検討会事前会議
(H14.8.29): 参加者 14 名
つくり方、使い方等
のアイデア出し



心のバリアフリー小冊子づくり「第1回検討会」
(H14.10.29): 参加者 27 名
小冊子づくりのアイデア出し

第2回検討会事前会議
(H14.9.4): 参加者 12 名
つくり方、使い方、
声かけの方法等



心のバリアフリー小冊子づくり「第2回検討会」
(H14.11.23): 参加者 83 名
バリアフリーのみちづくりの体験と検証
心のバリアフリーの体験と検討

第3回検討会事前会議
(H14.12.20): 参加者 14 名
小冊子への各自の
取り組み方



心のバリアフリー小冊子づくり「第3回検討会」
(H15.2.2): 参加者 45 名
小冊子の構成・内容検討
小冊子に盛り込む内容の体験

第4回検討会事前会議
(H15.1.27): 参加者 11 名
小冊子の構成



心のバリアフリー小冊子づくり「第4回検討会」
(H15.3.15): 参加者 35 名
小冊子のとりまとめ
今後の活動について

第5回検討会事前会議
(H15.2.28): 参加者 22 名
小冊子案の検討

コラム：心のバリアフリーについて

バリアフリーとノーマライゼーション

バリアフリー（壁をなくす）とは、障害者や高齢者の生活上の不便（バリア）を取り払うこと（フリー）です。たとえば、道路の段差をなくしたり、駅・建物にエレベーターやエスカレーターを設置することなどです。また、介助者や盲導犬の導入、字幕放送の使用、資格制限や就業時の欠格条項の撤廃、当事者に対する差別や偏見の解消など、制度面、文化・情報面、心理面での課題がたくさんあります。

この考え方は、次のノーマライゼーションという考え方につながっています。

ノーマライゼーション（あたり前に生きていくこと）は、バリアフリーをとおして障害者や高齢者、妊産婦や子どもたちなど、すべての人が社会から差別をうけず、そして不便を感じず、あたり前に生活し社会参加できるようにしていくことです。

こうした考え方は、障害者の声を受けとめた国連から、世界中に広まってきた考え方です。日本もこうした流れにそって、1992年「障害者基本法」をつくり、現在「脱施設（地域で暮らす）」を合言葉にした「障害者基本計画」を推進しています。

柏市でも、「ノーマライゼーション柏プラン」や「柏市交通バリアフリー基本構想」を推進しています。

ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザイン（あらゆる人が使いやすいようにすること）は、バリアフリーが障害者や高齢者のことに限定しているのに対し、「どんな年齢や状況の人にとっても、暮らしやすい社会をつくろう」という考え方として、新たに生まれてきたものです。

ユニバーサルデザインによって、健常者も障害者も、高齢者や子ども・妊産婦も、みんなが豊かな生活をするできるようになります。

いまや、どんな人にとっても普通に豊かに暮らせるシステムづくりが世界的に求められてきているのです。

心のバリアフリー

「心のバリアフリー」は、特に人々の心理面での、障害者や高齢者などへの偏見、怖れ、無関心などを取り払おうということです。

「柏市交通バリアフリー基本構想」は、2010年までに、市内JRや東武線の駅を中心とした地区や建物での改良を行いバリアフリー実現をはかろうとしています。そして、市全域でのバリアフリーやノーマライゼーションの実現をめざしています。

こうした柏市域での目的実現には、地区や建物の改良だけでなく、市民の障害者や高齢者への理解がかわる「心のバリアフリー」が重要になってきています。

1.

それぞれの思い

検討会の中で、障害を持っている人やお年寄りなどの思いと、お店の人や一般の通行人としての立場の思いを率直に話し合いました。

お互いに「手を貸してもらいたい」、「手を貸してもいい」という思いがありながら、すれ違いをしているようです。このすれ違いをできるだけなくしていこうというのが、私たちが進める「心のバリアフリー」の取り組みです。

● 障害を持っている人などの思い

● みつうに外出したい

- ・もっと自由に外出したい
- ・じろじろと見ないでほしい

● まちなかでいろいろと手を貸してもらいたいけど

- ・手を貸してもらいたいけど、手伝ってもらいたいけど、自分たちからはなかなか声をかけづらい
- ・手を貸して欲しいときと、手を貸して欲しくないときがある

● 一般の通行人、お店の人などの思い

● 手を貸してもいいけど

- ・声をかける機会が少ないし、タイミングが分からない
- ・手の貸し方が分からない(どうしていいか分からない)
- ・カッコつけてると思われそう、それがめんどくさい
- ・一人だと恥ずかしい

● 声をかけない

- ・つい見て見ぬふりをしてしまう
- ・何か言われそう
- ・私がやらなくても自分でできるだろう
- ・大変さが分からない
- ・あまり関心がない



コラム：色々な障害者がいます

人によって、障害は様々です。大別すると、視覚障害、聴覚・平衡・音声言語・咀嚼（そしゃく）機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害などがあります。

ヘレン・ケラーは、視覚、聴覚・音声言語などの障害がありました。このように、人によって、障害のあり方や種類は異なり、多様で無数です。

ですから、障害者をひとくくりに考えることは間違いです。大切なのは、障害者の意思を確認しながら、自分が出会った人が、どんな障害をもちどんな人となりであるか、そしてどんな心境にいるか、などをきちんと理解することです。そして、その人のもっている障害を「個性」や「特徴」としてとらえ、特別視せず、お互いの思いを大事にしながらか自然な付き合いを深めていくことです。

介助をするときには、当事者も、手伝ってほしいとき、手伝ってほしくないときがあります。ですから、本人の気持ちを確認することが大事です。自分の気持ちを伝えきれぬ当事者は、きちんと意思を伝える必要があります。自分の気持ちを伝えきれぬ人の場合は、介助者が、なにをどのようにするのか、意思を確認することが大事です。

障害者にとってのバリア（障害）とは？

障害者・高齢者にとっての生活上の不便さ（バリア）は、当事者の身体・精神等の障害に原因があると思っている人が多いようですが、実はそうではありません。私たちがつくっている社会が「健常者」を中心にしているから、障害者にとって住みにくいものになっているのです。

すべての人は、健康で文化的な最低限の生活を営む権利があると憲法に定められています。これは、すべての人に人権があることを示しています。ですから、障害者が自分の障害によって、不便な生活のままにおかれることは、人権侵害につながります。

障害がある人にとっても、住みよい環境・社会をつくる必要があります。社会が変われば、障害者にとっての不便さ（バリア）はなくなっていきます。このことは、障害者の、人権を守ることです。

そのために、介助など、障害者の人間的な生活ができる仕組みをあらゆる面で行っていくことが必要です。国や自治体にはそうした仕組みをつくっていく責務があるのは当然です。同時に、一人一人が当たり前前に障害者とつきあい、制度面・ハード面はもちろん、情報面・心理面から、社会を変えていくことが大事です。

どんな状態や状況にある人でも、その人の人権が保障されている社会をつくることは、すべての人の責任であり、義務でもあります。

2.

そんなすれ違いをなくすために

そんなすれ違いをなくして、心のバリアフリーを進めていくために、次のような意見が出されました。

交流や理解を深める場をつくろう

- ・小冊子を活用しての体験や話し合いの場づくり(学校での活用、ワークショップの継続、検討会の継続など)
- ・福祉のことを考える人を少しでも増やす研修体制づくり
- ・障害者と健常者の交流の場づくり



商店街での取り組みを考えよう

- ・お店などに「受け入れます」という目印をつくる(子供110番のように)
- ・「積極的に手伝います」シールを貼って、意思表示する
- ・盲導犬可の店などを増やす(盲導犬の認知)
- ・簡単にできる心づかいをお店などの人が理解する



手伝って欲しいときのサインをつくろう

- ・気持ちを伝えやすいサイン、印、合図をつくる
- ・声をかける勇気が出て、タイミングが分かるサインづくり



これ以外にもたくさんの意見が出されています。



そして、検討会の参加者が中心となって、無理なく進めていけそうな取り組みを検討しました。

しかし、4回の検討会では十分な時間がとれず結論が出ませんでした。そこで、市民が主体となって集まりを今後も開き、話し合いを継続していくことになりました。

3.

こんなこととして欲しい こんなことならできる

● はじめの一步は“声かけ”から

● 手を貸してくださる人へ

困っている人を見かけたら、思い切って「何か手伝いましょうか」などと一声かけてください。

でも、いきなり、手を引いたり、車いすを押したりすることはやめてください。相手を驚かせることになります。



人によって手の貸し方がちがいます。声をかけたあと、どのように手を貸したらよいか、必ず確かめてください。

手伝いを必要としない人もいらっしゃいます。そのような場合は、さりげなく見守ってください。



障害を持っている人などから声をかけられた場合は、普通に応じてください。手の貸し方は、その人が教えてくれます。

● 手を貸してもらいたい人へ

必要なときは「手を貸してください」と一声かけてみてください。手を貸したい人でも、声をかけるタイミングの分からない人がたくさんいらっしゃるようです。



必要のないときは「ありがとう」と感謝の言葉を添えて断ってください。強い拒否は次の声かけをはばむことにつながります。



手を貸してもらった後は、「ありがとう」の一言を返してください。その一言が次の“声かけ”につながります。

コラム：黄色いハンカチ運動

黄色いハンカチ運動とは

何か助けがほしいときにその合図として、“黄色いハンカチ”をふるると、それを見た方が声をかけ、手をさしのべるといふ、社会的な連帯と助け合いを願ってはじめられた運動です。「黄色いハンカチ」を見かけたら、ちょっと気にかけてください。

詳しくは、下記の連絡先に問い合わせるか、ホームページをご覧ください。

連絡先：全国黄色いハンカチ推進本部事務局

〒324-0024 栃木県大田原市福原 1881-3

ホームページ：<http://www10.ocn.ne.jp/hankachi/>

手紙で問い合わせる場合は返信用の切手を入れてください。(ボランティアです)



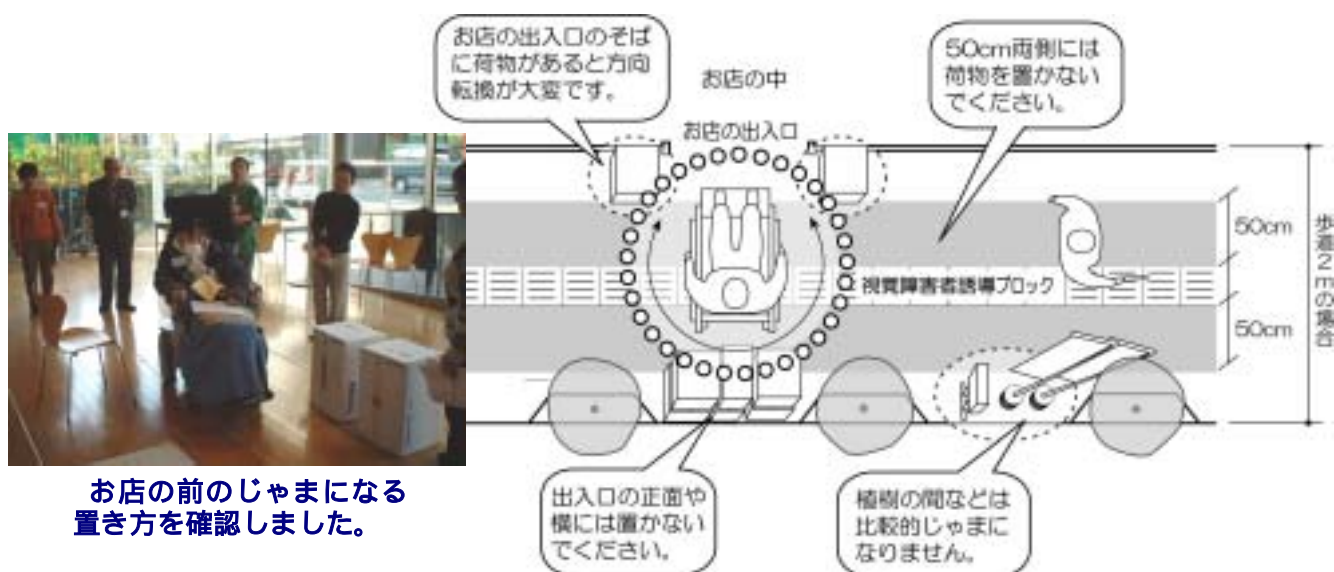
● あんな場面、こんな場面で

場面●:お店の前で

お店の前の商品や看板は気をつけてください

商品や看板は歩道にはみ出さないようにしてください。お店の前に商品を並べる場合は、次のことに気をつけてください。

<お店の前で気をつけて欲しいこと>



一方、お店の前を利用して通行する人の目を楽しませたり、にぎわいを演出することもできます



歩道にはみ出さずに花などがかざりつけてあります。(柏駅前サンサン通りのお店)



お店の花や緑は目を楽しませてくれます。(増尾駅前のお店)

お店の出入口にひと工夫すると気軽に入れます

「声をかけてください」とか、車いすマークのシールなどが表示してあると気軽に入ることができます。



例えば



障害を持っている人も入りやすく配慮している例(左:静岡県 右:市原市)

お店の前に、そのまちの情報を掲示するだけでも、ずいぶん親しみが持てるようです。



お店のガラスにまちの情報を貼っているお店(増尾)

アイデア

検討会では、障害を持っている人やお年寄りが気軽に入れるお店を、市民が表彰しようというアイデアも出されています。いかがでしょう？



キャッチコピーのイメージ
(話し合いで出されたアイデアの一例です)

簡単でいいので、お店の出入口を工夫してもらえませんか

車いす利用者や目の不自由な人は、お店の出入口に段差などがあると、とても困ります。

お店の出入口に取り外し式のスロープやマットを取り付けるだけで、ずいぶん入りやすくなるようです。



スロープとマットで入りやすくしている例(増尾)



スロープを設置している例(増尾)

- ・取り外しができるスロープは1店ずつでなくても2～3店舗に1つでもいいようです。協力して取り外しができるスロープを設置してみてもいいでしょう。
- ・マットは、ずれたり、すべったりしないように気をつけてください。



お店の出入りに手を貸してください

お店の出入口に段差がある場合や、自動ドアでないときなどは、お店の出入りに手を貸してください。



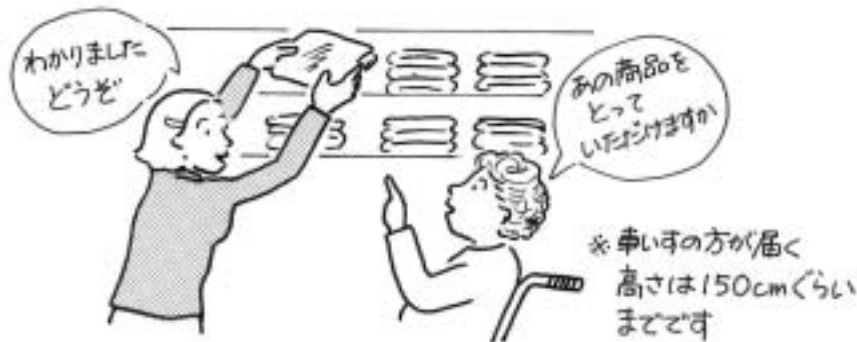
お店の出入口やお店の中などで、気づいたことがあったらメモしてください

声をかけたり、売場に案内していただけると助かります

お店の中で車いす利用者や、目の不自由な人などを見かけたら、「御用の時は、気軽に声をかけてください」などと声をかけていただけると大変助かります。



車いす利用者の場合、高い商品棚に手が届きませんので、声をかけた場合、お店の人やほかの買い物客が手を貸していただくと助かります。



車いすで品物の届く高さを確認しました。

目の不自由な人の場合、商品の陳列棚や、食堂のテーブル席が分からないことがありますので、お店の方や買い物客が手を貸して案内していただけると助かります。



お店の中にこんな配慮がしてあると助かります

お店の中の通路の配慮

- ・通路幅が70cm以上(理想は90cm)あれば、車いす利用者は通行できます。通路幅が狭い場合など、お店の人から一声かけていただくと、商品を取ってもらうことなどのお願いができて助かります。
- ・通路には商品などを置かないでください。バーゲンセールの時などには特に気をつけてもらえると助かります。



レストランなどのテーブル

- ・車いす利用者が食事をする場合、テーブルの高さは70cm程度が理想です。
- ・車いすが入るように、四すみに足のあるタイプで、床に固定してないものが利用しやすいテーブルです。



食事の風景(増尾のお店)

歩道では自転車のスピードを出しすぎないでください

歩道を通行する自転車を怖く思う人は多いようです。特に、耳の不自由な人には背後からの接近が分かりません。歩道上ではあまりスピードを出しすぎないように注意してください。また、混雑した歩道上では自転車を引いて歩いてください。



階段や段差のある場所ではできるだけ手を貸してください

障害を持っている人は、横断歩道の手前、スロープの手前、階段の手前、お店の出入口など段差のある場所で、困ることが多く起こります。このような場面を見かけたら、あなたから声をかけ、手を貸してください。

お年寄りの場合、階段や段差などではちょっとした荷物も大きな負担になりますので、荷物を持ってあげたり、手すりに導くなどのお手伝いをお願いします。



歩道などで危険な場所は手を引いたり、路面の状況を教えてください

目の不自由な人などは、混雑している場所、路上に障害物が多い場所、横断歩道などを通行するときが特に困ります。そのような場所では、積極的に声をかけてください。



狭い歩道に自転車を止めないで 障害物はあなたも取り除いてください

通行するのに危険ですので、狭い歩道上や視覚障害者誘導ブロックの近くには、自転車、荷物などは置かないでください。



南柏駅周辺の放置自転車

もし、視覚障害者誘導ブロックの近くに障害物を見かけたら、あなたも取り除いてください。



車が見えにくく危険ですので、横断歩道の手前では駐車しないでください。

耳の不自由な方に道を聞かれたら

自分は手話ができないからと逃げないで、できる範囲でいいですので、最後までコミュニケーション（意思疎通）をとってください。



まちなかで話しかけた相手が耳の不自由な人だったら

道などをたずねようと話しかけた相手が、耳の聞こえない人であっても、口をはっきりとあけて、身振りや筆談などを交えながら、最後までコミュニケーションをとってください。

話しかけた人が耳が聞こえないと分かったとたんに、不快な顔をされる場合があるようです。とても失礼なことです。気をつけてください。

声をかけても振り向かないとき、自転車のベルや車のクラクションを鳴らしてもどかないときなどは、「もしかしたら聞こえない人かもしれない…」とってください。



耳の不自由な人とのコミュニケーションを体験しました。

駅などでお手伝いをする場合は、次のことを注意してください

ここでは、電車やバスに乗る場面を想定して、気をつけることを書いています。目の不自由な人の誘導の仕方や車いすの押し方などは、「基本的に行えること(P20)」をご覧ください。

目の不自由な人が……

- ・電車やバスに乗る場合は、電車とホームのすきまやバスのステップの高さなどの様子を伝えてください。
- ・乗り降りするときは乗降口の手すりなどに手を導き誘導してください。
- ・降りるときも、すきまや段差等の状況を伝えてから誘導してください。



車いす利用の人が……

- ・電車やバスに乗り降りするときは、駅員や乗務員さんに知らせて手伝ってもらってください。
- ・ラッシュ時などは、車いすを利用している人の顔に、カバンなどがあたることがあるので、注意してください。
- ・また、ホームなどで待機する時は車いすが落ちないように、線路や道路に平行にし、必ずブレーキをかけてください。



耳の不自由な人が……

- ・耳の不自由な人の場合、電車の遅れなど緊急事態の情報が伝わりにくいの困ります。耳の不自由な人が困っているのを見かけたら、口をはっきりとあけて話し、身振りや筆談などを交えながら、今の状況を教えてあげてください。



駅で切符を買うときなどに手を貸してください

行き先案内が分からなかったり、キップ(切符)の買い方が分からない場合などもあります。

そのような場合、「どちらへ行かれますか」などと一声かけて、料金や行き方を教えてあげたり、券売機の使い方を教えてあげましょう。



障害を持っている人やお年寄りには席をゆずってください

電車やバスの中で、障害を持っている人やお年寄りが席に座れないのを見かけたら、一声かけてから、席をゆずりましょう。

まちなかや駅、バス停などで気づいたことなどをメモしてください。

4.

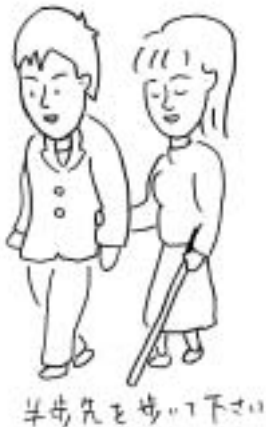
基本的にできること

● 目の不自由な人にできること

● 誘導（手引き）をするとき

誘導するとき

どのようにしたらよいかを尋ねて誘導します。一般的には、誘導をする側が半歩前に立ち、腕や肩などにふれてもらいます。



階段や段差

階段や段差があるときは、手前で一旦止まり、上りもしくは下り階段(段差)であることを告げ、本人に最初の一段を杖や足で確認してもらった後、一步先を歩くようにして誘導します。

エスカレーター

階段と同様に、エスカレーターの向きを告げ、ベルトの上に手を軽く乗せ、本人に最初の一步の場所を杖やつま先で確認してもらった後、進みます。



横断歩道で

通常は、信号機が変わることを音や気配で判断していますが、誤って赤信号のときに車道に出てしまうこともあるかもしれません。一声かけて、安全に誘導してください。



いすをすすめるとき

いすの位置と向きが分かるように、手をとっていすの背などに触れてもらいます。このときも状況をお知らせしてから行い、突然手を引っ張ったりしないように注意してください。



テーブルなどで物の位置を知らせるとき

テーブルの上に並んだものを説明するときは、正面の一番近くにある物などを基準にして、左右に何があるかを順番に教える方法や、時計の文字盤を例にとって教える方法などがあります。



お金のやりとり

お金をやりとりするときは、「千円札〇〇枚受け取りました」などと受け取った金額を伝え、おつりは「千円札〇〇枚、百円〇個で、〇〇円のおつりです」など、紙幣と硬貨は分けて渡しましょう。



● 手足の不自由な人にできること

● 車いすを利用している人にできること

声をかける場合

「お手伝いしましょうか」などと声をかけてください。また、事前にどのように手伝えばいいのか、車いすの持ってもいい部分などを確認してください。

車いすの押し方

車いすの後ろに立ち、両手でハンドグリップをしっかりと握り、ゆっくりと押します。動きだすとき、止まるときなどは声をかけましょう。



段差の越え方

段差のあるところでは、次のように介助してください。



坂道の通り方

上り坂、下り坂、急な坂では次のように介助してください。

● 上り坂



● 下り坂



● 急な坂



イラストは車いすにやさしい街をつくる会
作成資料を転載

階段の上り下り

階段を上り下りする必要があるときは、次のように少なくとも4人で対応してください。

4人で運びます。車いすに座っている人が不安にならないように、
確実に「安全な姿勢」で行なってください。座位がしっかりしているかを確認。



介助者は足元に
充分気をつけましょう。

● 松葉杖や杖を利用している人にできること

「お手伝いしましょうか」などと声をかけてください。そして、
どのように手伝え方がいいのかを聞いてください。

荷物を持ってあげたり、ドアを開けたり、雨の日に傘をさして
あげることなどもやさしい心づかいです。



● 耳の不自由な人にできること

耳の不自由な人にとっては、コミュニケーションが非常に大切です。口をはっきりとあけて話し、身振りや筆談などを交えながらお話してください。

読話

相手の口の動きを読み取る方法です。口の動きが分かるように、相手の正面を向いてはっきりと声を出して話してください。



筆談

紙などに文字を書いて伝え合う方法です。簡潔で大きく、短い文章で伝えるようにしましょう。

紙がない場合、手のひらに指で書くことも有効です。



手話

手話を使うと、耳の不自由な方はリラックスしてコミュニケーションをとることができます。簡単な手話を覚えてみませんか。

● こんにちは



人差し指を向い合せ
指先を曲げる

● ありがとう



右手甲に垂直にのせて
反対の手を上げる

コラム：耳の不自由な人とのコミュニケーション

耳の不自由な人には、ろうあ者、中途失聴者、難聴者（老人性難聴も含まれます）がいます。耳の不自由な人^(イコール)＝手話というわけではないので、次のような方法を組み合わせて、積極的にコミュニケーションをとってください。

読話（唇を読み取る）

筆談（メモ、ボード、手のひらに書く）

補聴器（声が多少聞き取れる）

空文字（指で空書きする）

手話・指文字（相手がわかれば効果はある）

身振り（ジェスチャーする）

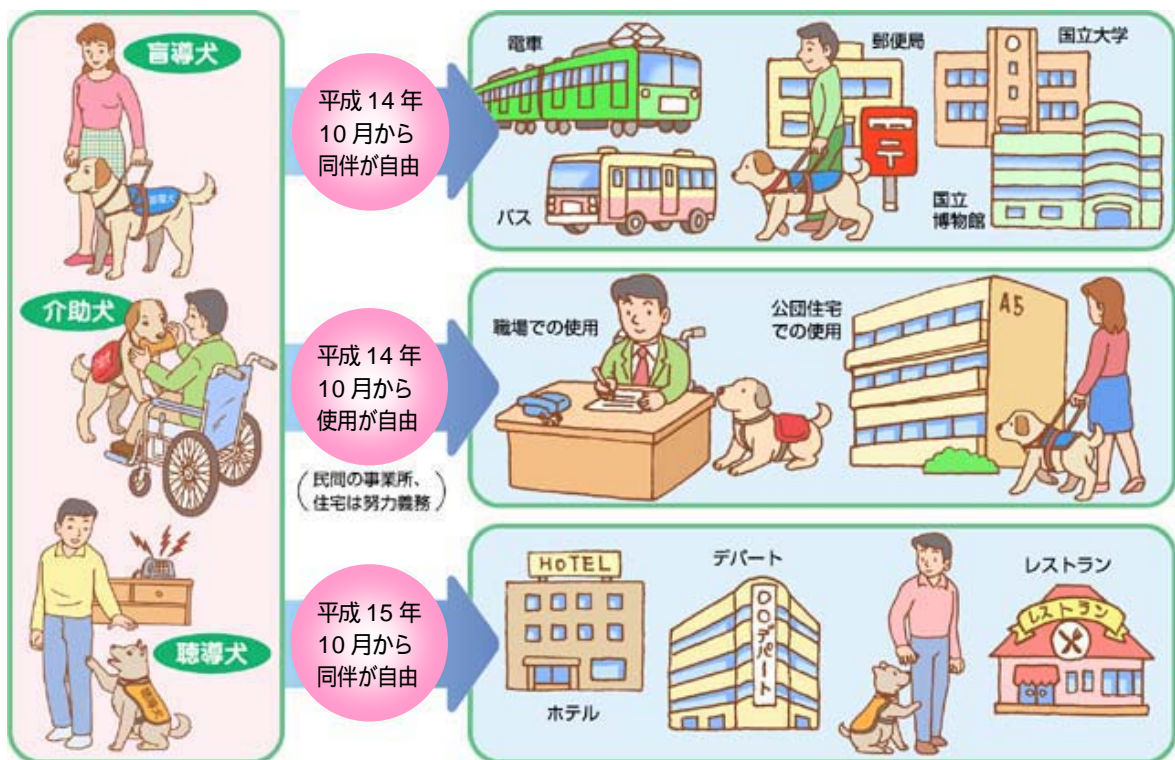
● その他

お年寄りの、目や耳、手足など体が弱くなります。

階段の上り下り、レジの支払い等の日常の行動がゆっくりになりますので、理解を持って接してください。

盲導犬、介助犬、聴導犬の補助犬がいます。

補助犬が仕事をしているときは、犬に触ったり、食べ物を与えて犬の気を散らすようなことは控えて、あたたかく見守ってください。



平成 14 年 10 月に「身体障害者補助犬法」が生まれ、駅やお店、ホテルなどたくさんの方が使う施設には補助犬が同伴できるようになりました。

出典：厚生労働省ホームページ

参加者の意見や感想

とても1冊の冊子には入りきれない皆さんの思いを、今後多くの人に伝えていくという課題が見えたことも、今回の成果の一つであると思います。(木庭 夢子)

バリアフリーについての会合は、今後も続けていきたい。小冊子を配る対象は最初に決めて欲しい。(鈴木 昇)

「市民中心だから市民が決めればいい」ということかもしれないが、丸投げは困る。(和田 慎太郎)
知的障害の団体から出席していたのですが、まだまだ知的障害に対する対応は具体的には(いろんなタイプがありますので)むずかしいのかなあと実感しています。(吉岡 直恵)

自身が障害者として小冊子が広まると本当に助かります。(酒寄 雪美)

コミュニケーションは、障害のあるなしに関係なくむずかしいものです。ちょっとした心づかいから少しずつ広げて行きたいです。(後藤 純)

様々な人との出会うきっかけができたことが一番良かったです。(渡辺 江位子)

とても勉強になりました。柏市がより住みやすく、住み心地の良いまちになることを期待しています。(近藤 真弓)

親子で参加、とても勉強になりました。ありがとうございました。(中村 幸子, 賢人)

検討会をきっかけに新しく出会えた人達と今後も一緒に考えていけたら良いですね。(野田 幸子)

数回にわたる検討会に参加、大変有意義でありました。街に出かけた場合、困っている障害者と出会ったら積極的に手を貸し実践したい。(森橋 留吉)

障害者や高齢者を理解し、共に生きていくことが求められています。今回はその第一歩です。(古賀 芳夫)

一歩前進でした。これが又、発展していきますように。(青山 茂)

柏市の小冊子作りの会議に出て、いろいろな面で勉強になりました。(恩田 浩幸)

第一回目より楽しく参加できました。又、色々な方と知り合うことができました。(花岡由貴子)

皆さんの情熱を感じました。自分にできることを考え取り組み、住みやすい街にしたいです。(前田 耕至)

正直言うと、もっと話し合いに出たかったです。中途失聴者・難聴者の団体が別にあることも知っておいて下さるとありがたいです。(鈴木 文恵)

またこういう会をしたいです。今度は色々な人達が、もっと来れるようにしてほしいです。(岸 竜太郎)

これからもより多くの参加者を募り、継続的に活動の輪を広げていけるように広報していくことが必要だと思います(七尾 ひろ子)

ワークショップから生まれたこの冊子、どう育てるかをとおおぜいで考えていければいいですね。(永桶 静佳)

小冊子すてきですね。細部にも配慮がいきとどき、質の高い冊子が出来上がったと思います。(平井 康男)

写真やイラスト等でわかりやすい小冊子が出来上がり、参加できて良かったと思いました。これを読んで、障害のある人と関わりのない方にもバリアフリーについて考えていただければうれしいです。(平井 智代)

もっとほかの人も参加してほしい。ワークショップでエスカレーターや点字のことがよくわかってよかった。(平井 康太)

ボクは電車に乗って、みんなで食事したり、歩いてたくさんの人に声をかけてもらってうれしかったです。ボクはお出掛けが大好きです。(平井 佑季)

「心のバリアフリー小冊子」作成に参加させていただいているうちに、これがバリアフリー社会形成の基本だと考えるようになりました。市場経済の支配する利益社会にあって、少なくとも障害者や高齢者と健常者との間に心の通い合う社会、さらに広くそれぞれにみんなが助けあう共同社会が出来てくれば、毎日の生活がどんなに楽しくなるだろうか。この小冊子はそのような楽しく美しい社会への基本になり得る素質を持っていると思います。(奥 猛)

この活動を通じて色々な人と出会い、自分自身とても勉強になりました。この小冊子の完成がゴールではなく、新たな活動のスタートになっていけたらと思います。(広川 徳子)



柏市交通バリアフリー 基本構想の概要

● 目的

バリアフリーに関するハードとソフト施策の基本的な方針を明確にし、効果的なバリアフリー環境を実現していくためにつくったのが「柏市交通バリアフリー基本構想」です。

● バリアフリーの目標

基本構想の目標年次は2010年（平成22年）とします。
実現する目標は次のとおりです。

□ 基本構想の目標

基本理念：「街にでかけよう」 - いつでも、どこへでも -

取り組み姿勢：バリアフリー実現のために、全市的（市民、民間企業、NPO、事業者、行政等）な対応で総合的、一体的に取り組みます

街に出かけようとする意思と受け入れる市民の意識づくり

バリアフリーの意識を向上させ理解を深めます（学習や教育による）
障害者、高齢者等の外出を支援します
市民との協働により安全で快適な空間をつくります（市民参画によるバリアフリーの実現）

安全で安心な地域整備と行動を促す環境整備

バリアフリーにより街の魅力づくりを行います
障害者の連絡体制を整え、安心できる地域の防犯・防災を向上させます
誰もが自立的に安心して行動できる街を目指します（主に特定事業の内容）
総合的、横断的にバリアフリー化を進めます

● 市民参加による取り組み

- ・市民参加によるバリアフリーワークショップ（現地点検、バリアフリー施策提案）（2回実施）
- ・障害者・高齢者団体とのヒアリング（意向把握）
- ・策定委員会への参加
- ・構想案に対する意見募集（パブリックコメントの実施）

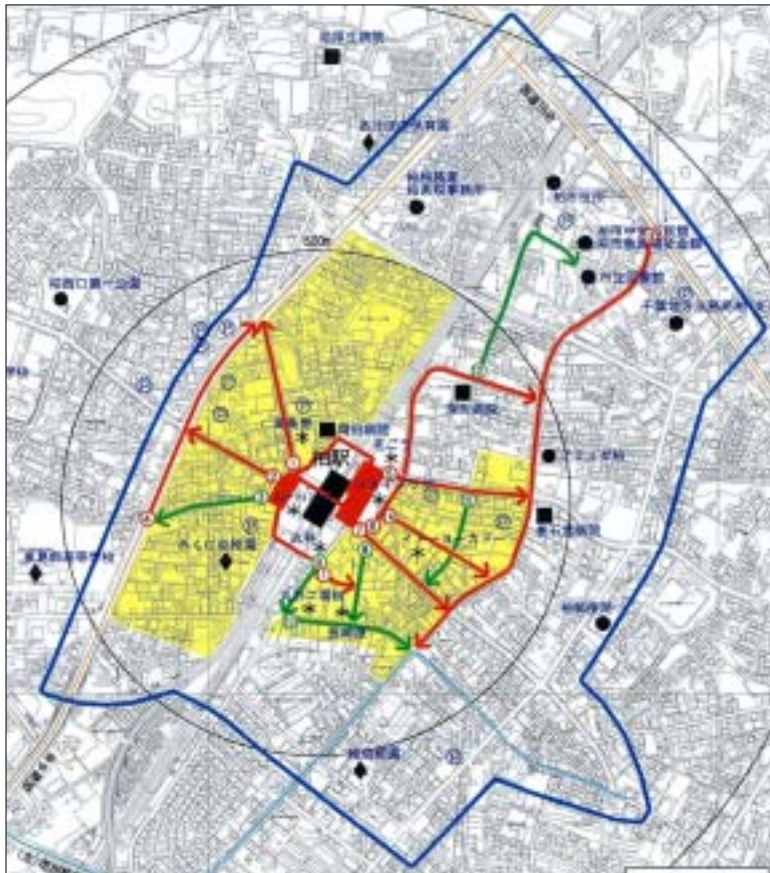
重点整備地区特定経路

バリアフリー整備を重点的に実施していく重点整備地区内に、駅と主要施設等をアクセスする特定経路等を設定し、重点的にバリアフリー化を図ります。

重点整備地区

- 柏駅周辺地区 南柏駅周辺地区 北柏駅周辺地区 豊四季駅周辺地区
 新柏駅周辺地区 増尾駅周辺地区 逆井駅周辺地区

柏駅周辺地区

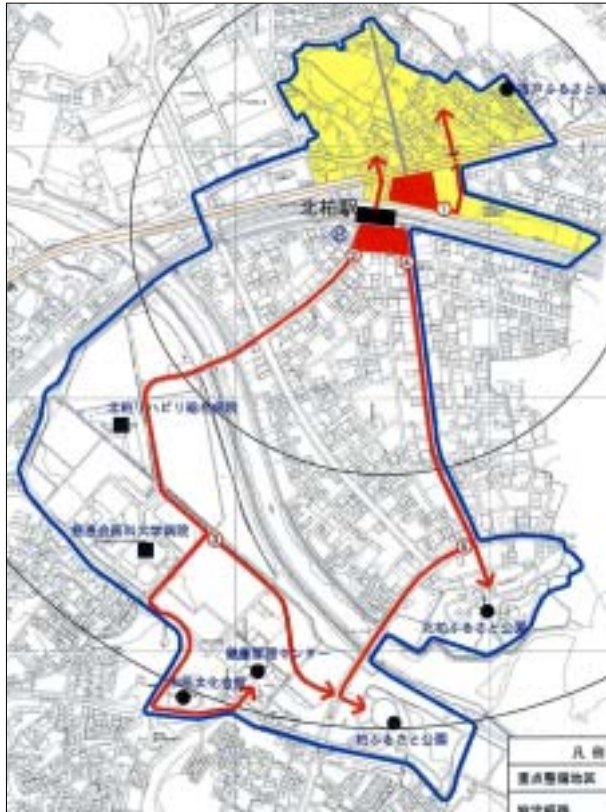


南柏駅周辺地区



凡例		凡例	
重点整備地区		公共施設	
特定経路		病院	
その他の経路		教育施設	
特定障害施設		福祉施設	
		大型店舗	
		駐車場	
		国道	
		県道	
		道の整備	

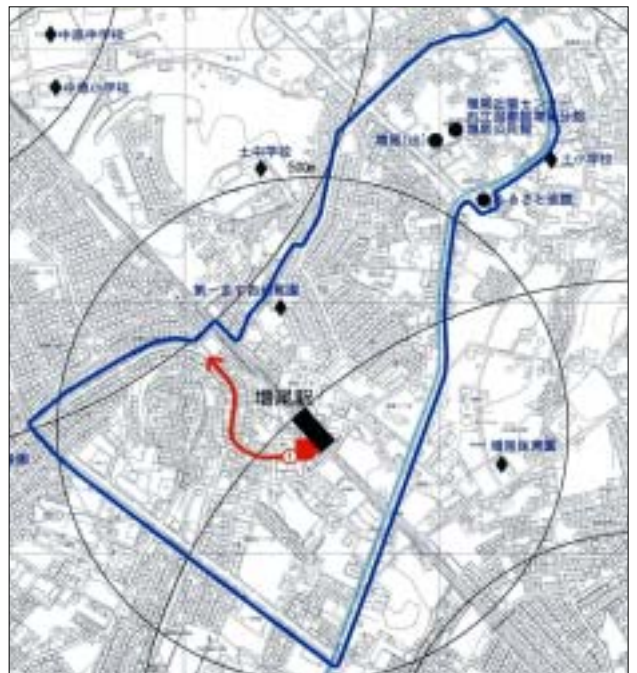
北柏駅周辺地区



豊四季駅周辺地区



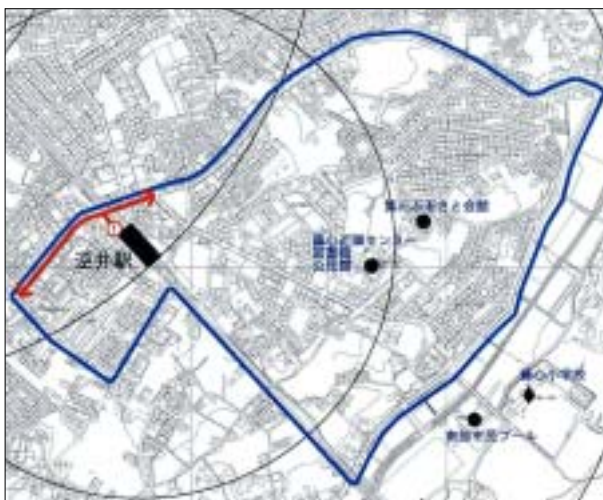
増尾駅周辺地区



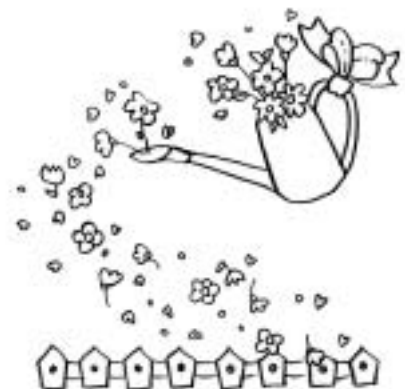
新柏駅周辺地区



逆井駅周辺地区



凡例		凡例	
重点整備地区		公共施設	
特定経路		病院	
その他の経路		教育施設	
特定旅客施設		福祉施設	
		大型店舗	
		駐車場	
		国道	
		県道	
		道の整備	



● 実施する事業

公共交通や道路等の事業者及び管理者が実施する特定事業

公共交通特定事業（駅舎やバス停などの改善）

駅舎のエレベーターやエスカレーターの設置、わかりやすい案内情報の提供、使いやすい券売機の改善、視覚障害者誘導ブロックの設置や改善など

バス停のベンチ・上屋の設置、ノンステップバスの増加など

道路特定事業（歩道などの改善）

歩道の段差、勾配、路面の凸凹等の改善、視覚障害者誘導ブロックの設置や改善、路上障害物の整理など

交通安全特定事業

音響信号の設置など信号の改善、駐車違反などの取り締まり強化

その他の事業

公園の出入り口やトイレの改善など

施設（建物）のバリアフリー施策

施設のバリアフリー化（特に施設出入り口など）の重点的指導

不特定多数の方が利用するトイレの改善

商店街、大型店などの意識の向上

柏市福祉のまちづくりのための施設整備要綱の見直し

比較的規模の大きい駐車場の身体障害者用駐車施設や上屋の設置

ソフト施策

バリアフリーの意識の向上

学習・啓発活動の活発化（手話講座、接し方講座、ボランティア育成講座など）
交流による意識づくり（学校の総合学習との連携、商店街・地域との交流会など）

障害者、高齢者等の外出支援

直接的な外出支援（福祉タクシーの助成、ヘルパー派遣（移動介護）など）
情報提供の充実（バリアフリーマップ作成、お店に気軽に入れる表示づくりなど）

市民との協働による安全で快適な空間づくり

やさしい声かけの促進、市民活動の核づくり、交流活動やイベントへの参加など

バリアフリーによるまちの魅力づくり

商店街の環境整備（休憩所や子供預かり所の設置、店舗のバリアフリー化など）
駐輪やはみ出し看板の対策（ルールづくり、自粛ステッカーづくりなど）

障害者の連絡体制を整え、安心できる地域の防犯・防災の向上

地域の防犯・防災体制の確立、高齢者・障害者の防災マニュアルの策定など

総合的、横断的なバリアフリー化の促進

バリアフリー化の統一基準の整備、総合的・一体的な取り組みなど

柏市心のバリアフリー小冊子検討会の参加者

個人名

青山 茂
荒木 文子
荒木 美代子
市川 精
井上 正登
猪早 恵美子
岩城 さと
上原 ちい子
内山 俊夫
大井 美津枝
大嶋 智加子
奥 猛
恩田 浩幸
加藤 祝子
神林 保夫
岸 竜太郎
小坏 正純
古賀 芳夫
国分 昭一
後藤 純
木庭 夢子
小林 ミドリ
近藤 隆治
近藤 真弓
相模 あい子

酒寄 雪美
佐藤 元哉
佐野 公子
繁田 喜子
清水 友美子
菅原 愛夏
杉崎 和久
鈴木 昇
鈴木 文恵
多賀 恵子
滝 美予子
田中 薫
田村 由紀
戸井田 裕二
永桶 静佳
中野 照郷
中道 恵美子
中村 賢人
中村 幸子
中村 定夫
七尾 ひろ子
西山 昌子
西脇 久美子
西脇 理知子
野田 幸子

野村 泰功
羽川 幸一
花岡 由貴子
平井 康男
平井 智代
平井 康太
平井 佑季
広川 徳子
福田 満広
穂積 満喜子
前田 耕至
宮本 雄一郎
盛田 悦子
森橋 留吉
矢口 ゆうみ
矢嶋 教文
横内 健一
横尾 多恵子
横尾 三智子
吉岡 直恵
六川 カホル
和田 慎太郎
渡辺 江位子

(敬称略)

この他にも参加いただいた方がいらっしゃいます。

参加した方の所属している団体など

身体障害者福祉協会
視覚障害者協会
聴覚障害者協会
柏市手をつなぐ育成会
老人クラブ連合会
自立生活センター K2
デイケアサービス あいの手
車いすにやさしい街をつくる会
障害児(者)の福祉を考える会
ひだまり
柏市肢体不自由児(者)を育てる会
千葉県中途失聴者・難聴者協会
柏駅前通り商店街振興組合
増尾西口商店会
柏商工会議所
東京理科大学

イラスト作成

七尾 ひろ子
平井 康男
平井 康太
金子 俊之



事務局

柏市
NPO法人千葉まちづくりサポートセンター 原田
株式会社 福山コンサルタント

連絡先

柏市企画部 企画調整課

〒277-8505

千葉県柏市柏5丁目10番1号

TEL 04-7167-1117

FAX 04-7167-6644



● ● ● ● はじめの一步は声かけから ● ● ● ●

発行：柏市 企画部企画調整課 TEL 04-7167-1117
平成 15 年 3 月 1,500
この小冊子は、再生紙を使用しています。